

閲覧用

河内長野市国際化・多文化共生ビジョン（案）に対するパブリックコメント意見一覧

【概要】

令和2年1月23日（木）～令和2年2月23日（日）まで、市内の主な公共施設及び市ホームページにおいて公表し、河内長野市国際化・多文化共生ビジョン（案）に対するパブリックコメントの意見募集を実施しましたところ、2名より2件の貴重なご意見をいただきました。

これらのご意見と、ご意見に対する市の考え方は下記のとおりです。

番号	分類	ページ	ご意見	市の考え方
1	参考	P20 P21 P26	<p>日本人市民と外国人市民の人間関係をつなぐことで地域社会への参加を支援しつつ、双方が生活しやすいまちづくりに貢献するコーディネーターを、地域の実情が把握しやすい公民館の職員として配置することを提案いたします。</p> <p>本提案の背景は以下の通りです。</p> <p>外国人市民が地域に増えると、母国との生活習慣の違いによる騒音やゴミの分別等の問題が起きて、日本人市民にとって迷惑な隣人になることがあります。しかし、日本人市民にはトラブルでも、外国人市民がトラブルと認識しないケースがある一方で、生活習慣の違いはすぐ直らない上に言葉も伝わらない場合、これらの問題解決には時間を要します。</p> <p>また、外国人市民との交流イベントは、多文化共生に興味のある同じ顔ぶれの市民や、地域外の市民ばかりが参加するだけで、同じ地域の市民交流になりにくい現実があります。結局、同じ地域の市民同士は、見知らぬ隣人のままになりがちです。</p>	<p>本市においても外国人市民は増加してきていることから、今後の増加を見据えて、地域住民への理解に努めながら外国人市民の受け入れ環境を形成していかねばならないと考えています。</p> <p>本市ではこれまで、河内長野市国際交流協会によって外国人市民に対する日本語学習や地域での生活、市民との交流の支援を行ってきました。</p> <p>しかし、ご指摘のとおり、今後外国人市民が地域住民とのコミュニケーションを図れるような支援を積極的に推進していく必要があると認識しています。</p> <p>そこで、本ビジョンでは「外国人市民コミュニティへの支援（日本語教育機会の確保等）」</p>

		<p>さらに、外国人市民の中には、生活を営むことで精一杯な方もいて、時間的・言語的等の制約から、地域活動への自発的な参画が難しい現実もあります。</p> <p>そのため、交流事業や地域行事への参加促進の事業は、結局、多文化共生に関心を持つ一部の層にしか効果がなくて、誰もが住みやすいまちづくりに至らないことが、日本の各地で見受けられます。</p> <p>つまり、外国人市民が地域に住み始めたことで生じる、日本人市民にとっての生活環境の悪化を緩和し、両者が人間関係を築く機会をしっかりと設けて、外国人市民の受け入れを軟着陸させる必要があります。</p> <p>この観点が抜けた場合、元から住む日本人市民の不満が溜まり、双方が住みにくい上に、外国人市民が定住しにくくなってしまいます。</p> <p>そもそも、外国人市民と一括りに表現できても、その実態は、経済状況、教育レベル、在留資格等で多様な背景を持つため、一律の施策がなかなか機能しません。</p> <p>そこで、騒音やゴミの分別等の問題を緩和しつつ、市民同士の間を意識的につなぎ、地域の現状に根差した対応策を実行する第三者が、外国人市民の住む地域に必要です。</p> <p>これらの業務は、日頃から地域の市民と人間関係を築ける場所で働く、公民館の職員に適任であるため、その活用を提案します。</p>	<p>として「外国人市民の地域社会における共生の推進」の項目を設け、自治会やまちづくり協議会などの地域団体と協力し、本市や国際交流協会がコーディネーターとして連携し共生を図っていく方向です。</p> <p>一方で、ご提案の公民館職員については、現在も地域課題の解決に向けて取り組んでいることから、今後は多文化共生の研修も取り入れながら、先のコーディネーターを補完できるように進めてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、本ビジョンにつきましては、本市の国際化・多文化共生に向けた取り組みの方向性を示すものでして、個別具体的な取り組みについては更なる検討が必要と考えております。</p> <p>ご提案につきましては、今後の取り組みに生かしてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
--	--	--	---

		<p>公民館の職員が、双方の市民と信頼関係を築いてイベントなどに誘えば、多文化共生に対する興味のあるなしに関係なく、交流イベント参加者が増えて、地域市民の交流も促進されます。また、地域市民の苦情を日々把握して適切な対処をすれば、様々な問題も緩和に向かいます。</p> <p>例えば、人口5000人の内、その半分以上を超える2800人以上が外国人になった埼玉県川口市の川口芝園団地では、学生ボランティア団体「芝園かけはしプロジェクト」が、双方の市民と信頼関係を築いて、上述のような役割を一部担っています。</p> <p>また、三重県四日市市では、外国人市民の集住する笹川地区を多文化共生モデル地区に位置付けて多文化共生サロンを設置し、多文化共生モデル地区担当コーディネーターを配置。地域の現状や課題の迅速な把握に努めつつ、日本人市民と外国人市民の日常的な交流の取り組みを進めています。</p> <p>一方で、川口市の事例は、ボランティア活動のため、個人の事情に左右されて、安定した活動に限界があることも分かっています。また、様々な地域にコーディネーターを新規配置するのは、予算的に難しいものと考えます。</p> <p>そこで、公民館の職員がコーディネーターになれば、個人の事情に左右されず業務としての安定的な活動が可能になります。また、既存施設と職員の方々を活用することで、新規予算を投入する必要もありません。</p> <p>ただ、公民館の職員が、これらの業務に精通するため、コー</p>	
--	--	---	--

			<p>ディネーター育成研修を実施することが必要です。</p> <p>そして、公民館の職員の統括責任者として、生涯学習部文化・スポーツ振興課や国際交流協会の職員の方々が、横断的な視点での情報共有や研修等を実施することで、公民館の職員が各地域に根差して活動する縦の取り組みと、市全体に効果が波及する横の取り組みが合わさって、結び目の固い多文化共生の施策を展開できると考えます。</p> <p>従いまして、1. コーディネーターとして公民館職員の活用を明示、2. コーディネーター機能（問題の緩和、双方の市民の人間関係をつなぐ）の明示、3. これら施策の評価方法の明示、4. コーディネーター育成研修の実施を明示、という4点の追加を提案します。</p>	
2	包含	P19 P20	<p>河内長野市で国際化多文化共生ビジョンを作るということですが、これから河内長野市にたくさんの外国人が住むのでしょうか。観光に関しては、何が起きるかわからない面があり、外国人のSNSを利用した口コミが、大いに観光客を呼び込む可能性もあります。</p> <p>そこで今の時代に必要なこととして、まずは外国人が自ら情報を収集し、発信できる環境、すなわち Wi-Fi によるインターネット環境であり、外国人が見てもわかりやすいホームページであると考えます。そして、分からなければどこへ行って、誰に聞けば教えてくれるのか、相談できるのかということでしょう。他市では総合窓口センターのようなものがありますが、生</p>	<p>本市における外国人市民は増加してきており、本ビジョンでは今後も国・府の政策に沿って増加傾向と考えています。</p> <p>また、外国人市民であっても、他の市民と同様の行政サービスを受けられる環境が重要と考えていることから、自ら情報を得るための手段であるインターネットやICT機器の活用に加えて、相談窓口の充実を図ってまいります。</p> <p>さらに、外国人観光客にとっても訪れやすく、やさしいまちとなるように、観光情報の提</p>

		<p>活者に対してはやはり市役所の中にあるのがよいし、観光客に対しては河内長野駅前ではないかと思えます。</p> <p>その上で、地震や災害、今回のコロナウィルスのようなこともあり、病院や救急の備えを日頃からどうしておくのかなど、考えていけばきりはありませんが、いずれにしても今後、多文化共生社会を当たり前のこととして受け入れていくにあたり、住民とのトラブルにならないように進めていかねばならないでしょう。</p> <p>このビジョンを生かして、河内長野市の国際化が進み、人材が育ち、まちの新たな可能性が広がることを期待します。</p>	<p>供や河内長野駅前観光案内所の多言語化などに対応し、「おもてなし」に努めてまいります。</p> <p>一方、緊急時においては、外国人市民同士はもちろん、地域住民同士の助けあいが不可欠であるため、日頃から様々な機会において、相互理解のための取り組みを進めてまいります。</p> <p>このビジョンをきっかけに、本市における多文化共生の機運の醸成を図り、まちの発展につなげてまいりますのでよろしくお願いいたします。</p>
--	--	--	---

問い合わせ先：河内長野市原町一丁目1番1号

河内長野市教育委員会事務局 生涯学習部 文化・スポーツ振興課

0721-53-1111